



日本聖公会
大阪教区教務局
〒545-0053
大阪市阿倍野区
松崎町2-1-8
TEL 06-6621-2179
FAX 06-6621-3097
発行責任者
教務局長 司祭 原田光雄

〈HP〉 <http://www.nskk.org/osaka/index.htm> 〈e-mail〉 office.osaka@nsk.org

第450号 2016年8月28日発行

8月11日(木・休)、新しく今年から始まった国民の休日「山の日」に、川口基督教会・京都教区礼拝部と大阪教区礼拝・音楽委員会の協働による合同礼拝「ともに祈る、美しき地と輝く空と」が行われました。地球環境をテーマにした礼拝です。



私たちのキリスト教信仰には、神が創造された自然を愛すること」という項目が入っています。しかし、そうした理解はそれほど以前からのことではありません。アングリカン・コミュニケーションの5番目の指標も、1998年のランバス会議でやっと正式に採用されたのです。

美しき地と輝く空と

司祭 ペテロ 岩城 聰

事実、教会が自然を守るという環境保護の問題に取り組むには、長い時間がかかりました。教会の宣教課題としては違和感もありました。しかし、環境破壊という事態は、現代になって誰の目にも明らかになりました。このような事態に責任があるのは、西洋物質文明とそれを育んだキリスト教であるという批判が、仏教の学者を中心になされています。その主張の根拠の1つは、創世記の天地創造の物語です。創世記

し、守る、そしてそれらを通じて示された神のご栄光を褒め称え、神の恵みに感謝するということが大切な内容として含まれているということは自明のこととされています。全世界の聖公会(アングリカン・コミュニケーション)が掲げている「宣教の5つの指標」の中の5番目には、「被造物の本来の姿を守り、地球の生命を維持・再生するために努力

の中には、神は人間を創造された後、自然界を「支配せよ」との命令を与えられたと記されています。この一事を捕らえて、「聖書には、人間が自由に自然を支配してよいと書いているのではないか」というキリスト教批判がなされるわけです。また、キリスト教に比較的近い立場におられる人々からも、人間は神の自然

それらを反映した人間と自然の関係は、決して、乱暴な王様と家来のような関係ではありません。イスラエルの伝統では、神さまと人間、王と民の関係は羊と羊飼いの関係にたとえられています。人間は自然の面倒を見る、自然の世話をすることが求められています。創世記第3章では、神は人間に土を耕させたという命令が記されていますが、それは自然を破壊することではなく、土地を耕し、豊かにし、実りをえるということなのです。ですからそれはむしろ「支配命令」ではなく「耕作命令」という方が正しいのです。ところが人間は、聖書の言葉を誤解して、誤用して、人間の膨れあがる欲望を満たすために、自然に対する無制限な利用、つまり搾取による破壊を正当化したのだと思います。

人間と自然の関係に対するこれまでの理解に、反省の声が上がってきました。余りにも凄まじい自然破壊の現状に、これは間違っているという意

このように事態に進みましたが、このような事態に責任があるのは、西洋物質文明とそれを育んだキリスト教であるという批判が、仏教の学者を中心になされています。その主張の根拠の1つは、創世記の天地創造の物語です。創世記

それらを反映した人間と自然の関係は、決して、乱暴な王様と家来のような関係ではありません。イスラエルの伝統では、神さまと人間、王と民の関係は羊と羊飼いの関係にたとえられています。人間は自然の面倒を見る、自然の世話をすることが求められています。創世記第3章では、神は人間に土を耕させたという命令が記されていますが、それは自然を破壊することではなく、土地を耕し、豊かにし、実りをえるということなのです。ですからそれはむしろ「支配命令」ではなく「耕作命令」という方が正しいのです。ところが人間は、聖書の言葉を誤解して、誤用して、人間の膨れあがる欲望を満たすために、自然に対する無制限な利用、つまり搾取による破壊を正当化したのだと思います。

人間と自然の関係に対するこれまでの理解に、反省の声が上がってきました。余りにも凄まじい自然破壊の現状に、これは間違っているという意

キリスト教会内部からも、人間と自然の関係に対するこれまでの理解に、反省の声が上がってきました。余りにも凄まじい自然破壊の現状に、これは間違っているという意

(次頁最下段につづく)



小禄聖マタイ教会での交流会



高江での座り込み

命ぬらどう宝

平和って何？わたしの平和、キリストの平和、
2016年沖縄週間／沖縄の旅に参加して

司祭 ウイルソン ウォーレン

6月24日(金)～27日(月)に2016年沖縄週間／沖縄の旅に参加させて頂いた。充実した体験ができ心から感謝いたします。初日から沖縄の独特な暑さ・湿気と付き合いつつ、「気付いていなかった」、

自分にとって幾つかの大きな発見がありました。まず、那覇空港についてから昼食直後に沖縄国際平和研究所を訪れ、沖縄戦の辛い歴史が良く伝わる展示を拝見できました。日本とアメリカの当時の写真・文書・ポスター

等によって、その戦争の恐怖がともリアルとなりました。特に、中学生が軍人となっている姿に目を留めると、悲しみが心に湧いてきました。しかし、過去だけではなく、沖縄の人々の現在の状況について、多く理解する機会が与えられました。フィールドトリップとして、辺野古テント村の新基地建設防止座り込み参加、そして、高江ヘリパッド座り込みを見学し、お話を聴くことができました。また、浜に出て、しばらくお祈りの時を持ちました。

26日(日)に参加者は分かれて、幾つかの沖縄教区の教会で主日礼拝に参加しました。私は北谷諸魂教会で礼拝ができました。久しぶりに英語の礼拝に参加しましたが、不思議なことも感じました。「沖縄の旅」の主なテーマとして、「基地反対」と言うメッセージが良く伝えられています。この諸魂教会では、基地から来られた数人のアメリカ軍の

若い夫婦・家族と共に礼拝を献げました。そして、諸魂教会で昼食を頂いてから、その後、沖縄教区「慰霊の日」礼拝が行われました。「不思議」と思いながらも、神に感謝します。



浜での祈りの時

今回、沖縄の旅に参加でき、本当に恵まれたと思っております。いろいろ考えさせられました。まだまだ心の整理ができていません。また、もう一度参加し、更に理解を深められたら良いと思います。様々な印象の中で、心に残っているのは参加者、そ

（前頁よりつづく）
見が教派を超えて、示されるようになりました。1990年にソウルで開かれた世界教会協議会(WCC)の会議では、神から与えられた「地を支配せよ」という命令は長い間、間違って理解されてきた。神が人間に与えられた特別な責任とは、被造物の保全をすることだということが明確にされました。その時に強調されたのが、人間のスチュワードシップ、つまり「世話」ということでした。会議の裏方となるお世話役のことをスチュワードといいますが、人間はそのような世話係にならないければならないというのです。世界の聖公会がその宣教の指標の5番目に「被造物の本来の姿を守る」という項目を入れたのも、そうしたことを背景にしています。この美しい大地と空と自然環境を、いつまでも保ち、私たちの子孫に残していくことが、神によって与えられた「世話役」の責任であることを私たちはしっかりと覚えなければなりません。（いわき あきら・川口基督教会牧師）

（次頁4段目につづく）

教会牧師

シリーズ 聖公会関連施設紹介 ①

学校法人トリストラム学園

プール幼稚園

理事長・園長 モニカ 大坪 栄子

プール学院同窓生の働き 場所の為に」とプール学院同窓会によって設立されたプール幼稚園は多くの皆様に支えて頂いて、昨年度、創立50周年を迎えました。

親しみのある木造の旧園舎は1994年に温かみを残した鉄筋コンクリート造りの園舎に建て替えられ、ステンドグラスの光が射しこむ図書室



大坪園長(右)、園児と共に

貧しい人に与える人は



私の知人にマジック

(手品)の 開発を、ライフワークになさっている方がいます。それも生半可ではないのです。アマチュアですが、プロのために、新たな手品の開発に日夜取り組んでおられるのです。こういう方が実は結構おられて、月に一度は発表会があり、最優秀のマジック

が、プロに提供されていくのだそうです。

この方は、本業はお持ちですが、生活はまことに質素で、マジック開発は金もうけとか損得勘定無しなのです。そして時折ボランティアで施設や学校、お祭りでマジックを披露して、みんなを喜ばせておられます。この方とお話をしていますと、まことに健やかで幸せそうなのです。箴言28・27には「貧しい人に与え

る人は欠乏することがない。」とあります。きっと何かを差し出すと、そこに真空のような空間ができて、そこにまた何か吸い寄せられるように入ってくるので欠乏しないのでしよう。他人を喜ばせたり、他人の利益を追い求めることこそが、自分の心の健やかさや幸せにつながることを、わたしたちも覚えておきましょう。

(主教アンデレ磯 晴久)

(前頁よりつづく) して、沖繩の兄弟姉妹たちと一緒に歌った聖歌423番の歌詞でした。

命どう宝 小さな命
命こそ宝
豊かな 豊かな命
(菅屋聖マルコ教会牧師)

やパーゴラの下は子ども達にとっても保護者の方達にとってもゆとりの空間になっています。

50周年を機会に「ダイナミックに動こう！」を合言葉に、子ども達の活動を「森の時間」「庭の時間」「食の時間」「祈りの時」「出合いの時」と名付け、子ども達に出来ることは子ども達の手で、と願いながら過ごした時間は活気に満ちて本当に楽しい時となりました。



プール幼稚園園舎と園庭

園で収穫した野菜を使って子ども達と一緒に料理する「食の時間」。厨房からはいい匂いが漂ってきます。お料理が出来上がると勿論みんなで食卓を囲みます。

「命の糧」とは食べることを、そしてみことばに生きることをトリストラム先生が蒔いて下さった「繋がる喜び」を大切にしながら、「愛と文化を伝える園」としてこれからも子ども達や地域の皆様と共に歩んで行きたいと思っています。

(おおつば えいこ・大阪聖アンデレ教会信徒)

九州地震被災者支援ボランティア活動

訪ねる働き、聴く働き

司祭 クリストファー 奥村 貴充

7月11日(月)の晩から14日(木)まで、大阪教区の九州地震被災者支援の一環として「熊本聖三一ボランティアセンター」の働きに携わらせていただきました。3回目となりますが、今回も全国から数人のボランティアが教会に滞在しており、横のつながりの中で活動をとにもすることができました。

あの地震から早や3カ月が経過しようとしている中で感じたことは、復興がなかなか進まないということです。特に地震による被害の大きかつ

た益城町という地域では、今もなお倒壊した家屋が軒並みで、主な活動はブロック塀の解体作業、剪定、崩れた瓦の撤去作業が中心です。そのような中で、車中やテントでの生活を余儀なくされている方々、余震が続く中で心理的に不安を抱えている方々が多くおられるというのが現実です。

「熊本聖三一ボランティアセンター」の活動の方針の1つとして、配食しながら被災された方々のニーズを聴いていくということが挙げられま

す。訪問を続けていく中で信頼関係を築き、必要とされていることを見出していくためです。実際に伺った話では「行政の対応が遅くて待たされている」「素人で何とか修理し

「九州地震」

被災者支援献金

感謝と報告

司祭 ヨシユア 原田 光雄

「九州地震」被災者支援のための献金が当教区において、7月末現在、合計500万円が献げられ、まず経由先である管区事務所に送金されました。各教会によるお祈りと献げもの、教区事務所への速やかなご送金、ありがとうございました。当教区からの献金に関しては当初から、短期的には500万円を送金し、より長期的には、今後の

たが、職人さんが足りない」という切実な訴えを聴くことができました。こうしたニーズは教会に持ち帰り、夜の打ち合わせで分かち合い、次の活動へとつなげていくようにしています。そして1日の活動は朝の祈りから始まりますが、このような営みの中に教会のあるべき奉仕の姿があると言えるのではないかと思います。

ることながら、仮設住宅への引越もニーズとして上がってくるというのを耳にしました。そういう時にもやはり人手が必要とされています。これからも大阪教区として何ができるのか、どういがかかわり方が求められているのかを検討課題だと、作業をしながら実感しました。(おくむら たかみつ・聖贖 主教会牧師)

被災地の状況等を踏まえその時点で検討しよう、という方針でした。そして、この500万円は、2段階に分けて献げられ送金されました。第1段階はとり急ぎ、5月1日の主日に教区全教会で代祷とともに献げられた信施に、教区特別会計「災害緊急支援資金」から必要額を加え、合わせて200万円を送金しました。第2段階は、残額300万円を目標にして7月末を期限に各教会に呼びかけたところ、

367万円が献げられました。このうち300万円を8月はじめにやはり管区事務所に送金しました。目標を超えた分67万円については、とりあえず「災害緊急支援資金」に繰り入れました(7月11日常置委員会承認)。九州地震の被災者支援ボランティア派遣に要する交通費を同資金会計から補助していることを考慮したものです。九州教区の「九州地震被災(次頁3段目につづく)



まだ残る家屋のガレキ

ヨルダンにいる難民と共に歩む コプティ司祭をお迎えして

テモテ 清水 照章



語りかけるコプティ司祭

語りかけるコプティ司祭
で渡られた方々である。お父様は逃避行の途上でお生まれになったという。だから毎日のように難民の子どもたちが死んでいる現実

7月18日(月・休)に、ヨルダンからジョージ・コプティ(エルサレム及び中東教区)司祭がお越しになると伺い、大阪聖ヨハネ教会が会場になるということもあって、私は通訳のご奉仕をお引き受けました。教区の仕事を初めて関わらせていただく私に、社会宣教委員会の竹林徑一司祭、古澤秀利司祭、川口基督教会の池本真知子姉、大阪聖三一教会の山口善彦兄、大阪聖ヨハネ教会の牧口一二兄、田尻忠邦兄から懇切な指導をいただいた。当日は、40人の有志がお集まりになり交流を深めた。ご多忙の中、大阪教区の

磯晴久主教、川口基督教会の岩城聰司祭にもお越しいただき、会場には手作りの温かい雰囲気があった。
コプティ司祭のお話は終始人間味に溢れていた。講演の冒頭にはマタイ福音書25章35節の聖句を引用され、「イエスは言われた、『あなた方は見知らぬ私を招き入れてくれた』。中東の出身であるイエスに倣って、私たちも見知らぬ人々を家族の一員として招き入れるのです」。
司祭のお爺様のご家族はパレスチナのガザにお住まいだった。1940年代、第一次中東戦争の戦禍を逃れて長い道のりを西岸地区まで渡られた方々である。お父様は逃避行の途上でお生まれになったという。だから毎日のように難民の子どもたちが死んでいる現実

2016年大阪教区 (教区成立 93周年)

教区礼拝 聖餐式

シャローム～神さまの風に乗って～

とき 2016年10月2日(日) 10:30～

ところ プール学院中高 清心館

司式・説教 アンデレ 磯 晴久主教

信施は「九州地震被災者支援」「NPO 法人こどもの里」のため



午後のプログラム

午後1時～(ラウンジにて)

人形劇「かわいい3匹のおおかみ」

午後1時30分～(メアリーズホールにて)

講演会 講師：庄保共子さん (NPO 法人こどもの里施設長)

めておられる。その方から直接お話を伺っているのだから、身の引き締まる思いがした。講演の終盤にビデオが披露された。教会に集う難民の方々にマイクが向けられ、ある年配の女性が気丈にこう答えた。「国を追われて命から

呼びかけられています。お祈りと献金を覚え感謝申し上げますとともに、この呼びかけに対して、今後とも、一人でも多くの方が応えてくださるよう

う、お勧め、お願いいたします。(はらた みつお・大阪教区「九州地震」被災者支援室長、東豊中聖ミカエル教会牧師)

(しみず てるあき・大阪聖ヨハネ教会信徒)

主の呼びかけに聴く 主教主催 教役者黙想会

司祭 テモテ 内田 望

主教主催の大阪教区教役者黙想会が、7月20日(水)21日(木)、カトリック宝塚黙想の家で行われました。講師は、御受難会の来住英俊神父にお願ひしました。第1・第2講話で、司祭の役割に関して触れられ、「教会がキ

リストのからだ」の名に値する共同体として育つために、力を尽くす」責任が司祭であり、様々な司祭の役割を通して共同体としての成長を目標に置かなければならないことを話され、「仕える司祭」の大切さを強調され、司祭は普

段から自分を律していなければならぬと話されました。第3講話では、「説教」について話され、説教が「律法的・道徳的な勧め」になつていないかをよく見極め、今の私にとつての良き知らせ(福音)を語っていくことの大切さを話されました。そして、「律法的・道徳的な勧め」から解放されていくた



めには、レクチャオ・デイヴィナ(聖書本文を、非常にゆつくりと、行きつ戻りつ、何度も読む)大切さを話されました。この黙想会の週の福音は「マルタとマリヤ」でした。この中で「主よ、わたしの姉妹は、わたしだけに、もてなしをさせていただきます」というマルタの言

葉に対してイエスは「マルタ、マルタ」と呼びかけています。このイエスの呼びかけは、自分から離れてイエスのもとに来るようになるといふ呼びかけでもあります。日々、「忙しい」生活の中にある司祭にとつて、この黙想会は、自分から離れ主の足元に座りなさいという愛に溢れた呼びかけになったことを深く感謝しております。(うちだ のぞむ・堺聖テモテ教会牧師)



前列 中央(右) 来住英俊神父

去る6月11日(土)2時から、カトリック阿倍野教会で「聖霊降臨日前夕の祈り 実行委員会」の主催による「教会音楽祭 in 大阪」がありました。これは一昨年に開かれる予定が台風で中止になり、時期を6月に移しての開催だそうです。実は私は先日按手式を受けたばかりで、右も左も分からないのですが教会の聖歌隊の信徒さんに声をかけてもらって練習に加わるこ



「2016 教会音楽祭 in 大阪」に参加して

アリエル 植田 さおり

とが出来ていたので、出演させてもらいました。当日は雨にも降られず、お屋前にカトリック教会の2階にある小部屋で礼拝・音楽委員会の内海由美子先生の指導で、声出しから細かい確認をしながらの仕上げをしました。聖公会は聖歌集から「心の扉をひらく」と「神の約束はたされるまで」「時を超え」の3曲を、各教会からの参加者27人で合唱しました。2時からのプログラムは各カトリック教会の方々による「アヴェ・マリア」「ごらんよ空の鳥」、またフォークミサ

グループによる「主の祈り」などが披露されました。中間部では出席者全員による合唱で、聖公会の聖歌「手をのばして」も歌われ、教派を超えた一体感のようなものを味わうことが出来ました。その後またカトリック教会の本格的なラテン語によるグレゴリオ聖歌も聴き、プログラムラストが私達の出番です。後で皆さんからとてもよかったですと言っていたとき、初めての体験ながら楽しい一日を過ごすことができました。(うえた さおり・高槻聖マリア教会信徒)

3日間の交わりと分かちあい 京都・大阪教区 合同教役者修養会

聖職候補生 ペテロ 金山 将司

6月28日(火)から30日(木)までの2泊3日間、石川県能登千里浜国民休暇村において京都・大阪教区合同教役者修養会が開催された。大阪教区から8人、京都教区から18人、両教区合わせて26人の教役者が集い宣教的意見交換や各々が司牧する教会の課題などを分かち合った。

修養会初日は、両教区の現状報告、「大阪教区と京都教区の合併を推進する委員会」(通称OK委員会)の報告や両教区が個々に持つ課題などが話し合われた。余談ではあるが、この交わりの中で京都教区に4人の新たな教役者が誕生したことが報告され、両教区でその喜びを分かち合うことができた。

2日目は、両教区で現在進められている宣教協働について、具体的な報告があった。小学生や中学生キャンプなど、毎年続けて行くことが可能な

働きについて、共に情報を共有し合う必要性を強く感じた。

最終日のセッションでは、小グループに分かれて、両教区の教役者に共通して存在する悩みや牧会での問題点など、そこでき話し合えないであろう事柄をシェアした。例えば

ば、京都教区では、地域的に考え方や歴史認識などが違うなど、大阪では想像もつかないようなお話があり、京都と大阪ではさまざまな事においてかなりの隔りがあることに驚き合った。ただ、幼稚園、学校のチャプレンなど教育に

かかわる教役者の悩みは、両教区共通しており、共に分かち合える課題であった。

大阪と京都という別々の教区が共に色々なことを分かち合える機会を得ることができたことを神に感謝する。この

貴重な両教区の交わりと議論から多くを学び、神がより良い教会のあり方を示してください。ことを日々願いたい。

(かなやま まさし・大阪聖愛教会勤務)

日本聖公会婦人会第25(定期)総会 次期会長教区に北関東教区が選出される

ハンナ 井上 恵美子

6月16日(木)～17日(金)

に京都教区主教座聖堂において第25(定期)総会が開催されました。10教区の代議員と役員、各教区チャプレン、傍聴者合わせて約100人が開会礼拝に集いました。植松誠首座

ました。

議案は感謝箱献金のお献げ先、被献日献金活用、災害支援、また今期の決算と次期3年間の予算についてなど、すべて順調に承認されました。後日、決議録が皆さまの手に届きますので内容をご確認の講演でリグリマ・ジャパン

重責を担ってこられました。

5年目となる東日本大震災被災者支援や今年4月の九州地震被災者支援にも即座に対応してこられました。総会の決議にはこの3年間の活動が反映されています。

さて、次期会長教区には北関東教区が選出されました。

どちらの教区婦人会も担い手不足により運営がままならない状況で、北関東教区は苦悩の末お引き受けくださいました。「婦人会は教会にとっても、そして聖公会にとっても重要な役割を持っています。今は

苦しくてもずっと長く続けられるように皆さんが祈り求めてください」と植松誠主教より励ましの言葉がありました。

次期会長教区が婦人会の大きな活動の感謝箱献金・被献日

献金活用・会員相互の交わりをこれからも大切に進められることを願い、ネットワークの一端である私たちも共に歩んでいきたいと思えます。

(いのうえ えみこ・大阪教区婦人会長、高槻聖マリヤ教会信徒)

代表の上澤伸子さんより最近の活動の様子をお聞きしました。順調な活動と思われる気候の変動に左右され困難な状況に変わってしまうそうです。縫製の作品や大きなストール等のバザーもありました。この3年間は京都教区が会長担当教区として、各教区の取りまとめや情報発信などの

日本聖公会第62(定期)総会

祈祷書改正を確定、堅信前の陪餐が可能に

司祭 施洗者ヨハネ 山本 眞

6月2日(木)から4日(土)

まで、東京の牛込聖公会聖バルナバ教会礼拝堂において日本聖公会第62(定期)総会が開催され、大阪教区からは磯晴久主教と、岩城聰司祭、鈴木光子さん、長野泰信さんとわたしの4人の代議員が出席しました。2年に一度の総会

は日本聖公会の最高議決機関です。11教区から11人の主教議員、22人の聖職代議員、22人の信徒代議員でもって構成されています。九州地震から1か月半、熊本聖三一教会の山崎貞司司祭も九州教区の聖職代議員として出席され、被災と支援の体験を語ってくださいました。また、大韓聖公会のキムグンサン首座主教も被災現場を訪問された後、総会に出席してくださり、韓国からの支援献金を贈ってくださいました。

められ、組織各部署委員会からの報告を受け、決算予算などが審議されましたが、特筆すべきことは、何といつても祈祷書改正の確定とそれに伴う憲法法規の改正でしょう。祈祷書改正は、先の2014年の第61(定期)総会で協賛を得た「入信の式の一部改正」が今総会で出席議員の三分の二以上の同意を得て確定されねばならないものでした。この改正は、堅信式を受けることが聖餐に与るために必要な要件だったものを、堅信前に陪餐することを可能とするものです。先の総会後に発行された「堅信前の陪餐」を巡るQ&A(藤色表紙の小冊子)で、すでに学びの時を持たれた教会もありでしょう。総会では、特に異論もなく、この改正は確定しました。救いに必要なスクラメントは洗礼と聖餐の二つです。

ちも、イエス様の「からだと血」である「パンとブドウ酒」をいただいで、豊かな恵みに与ることができるようになりました。もちろん無条件にとりわけにはいきませんから、主教会は2017年1月を目標にこの実施に向けてのガイドラインや、こどもたちの聖体拝領への学びのプログラムを整えることを約束しています。

この祈祷書改正により、日本聖公会憲法法規の改正も必要となりました。憲法法規では、堅信式を受けて聖餐に与ったものを「受聖餐者」、年間2度以上聖餐に与ったものを「現在受聖餐者」とし、その「現在受聖餐者」が教会の諸活動の中心を担ってきているのですが、堅信前の陪餐が可能となつてきますと混乱が起ころうと予想されます。そこで、今までの受聖餐者を「堅信受領者」、現在受聖餐者を「現在受聖餐者」と改めることとしました。この法規の改正は今総会だけで可能です。そして可決されました。しかし、このことは教区の規則、各教会の規則、特に「宗教法規」を持つている教会では、注意が必要です。

来年の信徒総会ではその改正手続きが必要となります。どうぞそのことにご留意ください。「宗教法規」でない教会(大阪教区に一本化している教会)ではそのことは無用です。総会では、ほかにも大切な決議がなされました。特筆すべきは「ハンセン病回復者とその家族のみなさまへの謝罪声明」が決議されたことです。総会初日の「人権問題に関する学びの時」に北関東教区聖慰主教会の信徒、藤田三四郎さんのお話を聞くことができ、わたしたち日本聖公会が長くハンセン病療養所と関わってきたにもかかわらず、「らい予防法」の問題性に対してしっかりと議論してこなかったことを反省させられたことでした。その他多くの決議がなされましたが、紙面が尽きました。近く総会決議録も発行され、各教会に届くことと思います。最後に、首座主教選挙では、植松誠主教が6選され、総主事には矢萩新一司祭が再指名されました。植松主教からは「どうぞ、首座主教のために毎主日の代祷の中で祈ってください」との要請がありました。どうぞ各教会でお祈りください。どうぞ各教会でお願いします。

大阪教区婦人会 秋の修養会

日時: 10月18日(火) 午後1時

場所: 大阪聖アンデレ教会

講師: 東岡 牧さん (野宿者を支援する会代表、看護師)

テーマ: 路上生活者の命に寄り添う

員長、西宮聖ペテロ教会牧師、尼崎聖ステパノ教会管理牧師)

アングリカン・コミュニオン「宣教の5指標」⑤

第4の指標：社会の不正義な構造の変革に参与し、あらゆる暴力に反対し、平和と和解を追求すること

司祭 ヨシユア 原田 光雄

教会の働き「宣教の5つの指標」は、少しずつ馴染まれつつも、その程度には相当の開きがあり、その表記は馴染みの深い順に並んでいるように思われます。①「福音の宣言」と②「洗礼の執行」は、教会のなすべき当然の働きとして十分に馴染まれているようです。③「奉仕」は、十全に実践されているか否かは別ですが、教会の働きを表わすキーワードとしてすでに定着していると言えるでしょう。

ところが、今回のテーマ、④「社会の不正義な構造の変革に参与し、」については、馴染まれ具合は、①②③に比べると格段に乏しい。そして、⑤「被造物の本来の姿を守り、」はどうでしょうか。

発生から5年余、なお続く東日本大震災。特筆すべきは、地震と津波により、東京電力福島第一原発がメルトダウン

という最悪の重大事故をひき起こし、内陸部を含む広範な地域を放射能で汚染してしまつたことです。放射線量が高いため住み慣れた土地で暮らし続けることができず、大勢の住民が移住を余儀なくされました。一方、大震災に直面して、多くの人たちが、被災地に向け、物資を届け、資金を送り、さまざまな支援のボランティアとして駆けつけ、困難の渦中にある被災者とともに歩もうとしました。日本聖公会は「いっしょに歩こう！プロジェクト」を開始し、大阪教区もその一端を担いました。③「奉仕」は私たちの教会におおむね定着してきていると言えそうです。

ところが、東電福島原発事故による放射能汚染の被害に

対応する際、③「奉仕」の指標にのみ基づいては、隠された重大な問題が放置され

たままになってしまっています。そもそも、なぜ、福島県を含む東北地方にかくも多くの原発があるのか。しかも、福島第一原発は第二原発とともに、東北電力ではなく、東京電力の原発です。そこでつくられた電気は東北に住む人々の家庭や事業所ではなく、東京電力が配電する首都圏で消費するためのものです。換言すれば、放射能汚染という、致命的な危険性を伴う原発は東北地方に建設しておき、そこで生み出されたエネルギーは首都圏で利用する、という社会的な「構造」ができ上がってしまった。その根底には、言うまでもなく、地域間における経済格差があります。原発の立地自治体には莫大な額の交付金や補助金が国や電力会社から支給されます。経済格差ゆえに原発を誘致せざるを得ないとしたら、構造的暴

力

力の疑い濃厚です。まさに構造的な問題です。この問題には、③「奉仕」の指標のみではうまく対応できません。だから、④「社会の不正義な構造の変革に参与し、」の指標が、この隠された問題を提起し、私たち教会の大切な宣教の働きを新たに明示したのです。同様の問題は、

やはり原発を巡る北陸と大阪圏、米軍基地による負担や被害に関して沖繩と本土、その国の住民の生活全般において「途上国」と「先進国」等々、内外のいたるところに見られます。 (はらた みつお・大阪教区 教務局長、東豊中聖ミカエル教会牧師)

大阪教区連合男子会 一日修養会

あなたもわたしも 知っておきたい!

認知症って!?



～認知症になっても自分らしく生きるために～

日時 9月18日(日) 15時～18時

会場 川口基督教会

第1部 講演会 15時～17時 講師 沖田 裕子氏 (NPO 法人認知症の人とみんなのサポートセンター代表)

第2部 懇親会 17時～18時 (会費 1,000円)

実行委員長 岡田安朝 (大阪聖アンデレ教会)

7月10日(日)聖ルカ教会及び社会福祉法人東光学園にお邪魔し、教会敷地内の草抜き作業をお手伝いさせて頂きました。

予定の時間より早めに教会に到着した私たちを、管理牧師の内田望司祭は温かく迎え入れて下さり、東光学園内の朝の礼拝に招き入れて下さいました。朝の礼拝では、小学校低学年から高校生までの子供・青年達の元気過ぎるほどのパワーが炸裂し、約20分間



圧倒されっぱなしでした。午後から夏の日差しを浴び



こんにちは、 Gグループです！

フランチェスコ 香山 由希



東光学園の食堂で食卓を囲んで

ながらいよいよ草抜き作業を始まりました。開始早々、蚊に刺されまくり、汗かきまくりの状況に途中挫折そうになりながらも、スーパー助っ人(東光学園の子供達)の助けを借りることで、無事ワークを終えることが出来ました！

今回のワークでは、ただ作業をするだけでなく、聖ルカ教会の信徒の方々や東光学園の子供達と多くの交わりの時を持つことが出来、充実した一日を過ごすことが出来ました



た。天気にも恵まれ、大きな

パーゴラ(日陰棚)作製

怪我もなく無事にワークを終えられたことに感謝致します。今後の予定としては、9月18日(日)石橋聖トマス教会にて「あつまれ！泊りだ！Gグループだ！」と題した夏の青年交流プログラムを催します。詳しい告知内容は、チラシをご覧ください。少しでも興味がおありでしたら、ご参加下さい！

(かやま ゆうき・川口基督教会信徒)

集まれ！泊りだ！ Gグループだ！



【日時】2016年9月18日(日) 15:00
～ 19日(月・休) 16:00

【場所】石橋聖トマス教会 (大阪府豊中市待兼山町 5-17)

【内容】青年の交流プログラム (人形劇制作 他)

【参加対象】高校生以上

【持ち物】入浴セット、着替え

【参加費】無 料

※別途、食費(実費)・献金は個人負担になります。

【申し込み方法】

下記の内容を、メールアドレス

gloop.unei@gmail.com へご連絡下さい。

- ①氏名 ②年齢 ③所属教会 ④電話番号
- ⑤参加日 (全日参加 or 部分参加は参加可能日時)

Gグループチャプレン：

大阪城南キリスト教会 執事 成岡宏晃

プロジェクトリーダー：

高槻聖マリヤ教会 青年 小西宏平

西宮聖ペテロ教会 青年 吉川千尋

世界の窓

○クリスチャンは暴力に祈りで答える(米国聖公会) 12人の警察官

が狙撃され5人の命が奪われた惨事を受け、北テキサス一帯の教会では

祈禱会が持たれている。この事件とはミネソタとルイジアナで2人の黒人男性が警官によつて射殺されたことに対する抗議デモの最中に起きた惨劇である。「我々の街は引き裂かれ痛めつけられ、破壊されたのだ」とテキサス教区の宣教師キャリー・ヘディントンは語る。そして「我々は

涙みなき行動に呼び出されている。それは人種間の和解であり、正義と平和であり、全ての人格への威厳の尊重であり、それを祈る責務のことである。教会は主イエスの大使として、この祈りの宣教に従事するように召されているのだ」と述べている。また、米国聖公会総裁主教マイケル・カリー神父はビデオメッセージを配信し、「教会は祈りを持つようにと呼び出されている。そして国家としての良き

道を造り出す民族的対話を始めなければならぬ。その道とは、私達が神の子どもとして一致と尊敬と誇りを持つことを認め合うことに他ならない」と語った。このメッセージの中でカリー神父は「我々は神に似せて創られた価値ある神の子どもなのだ」と何度も繰り返した。

(Anglican Communion News Service, July 11th, 2016)

○ヨーロッパの主教達が、ドイツでの無差別テロを語る

ミュンヘンにあるオリンピック・ア・ショッピングセンターのマクドナルドから、18歳の少年が無差別に銃を発砲し25人が死傷するという事件が発生した。現在のところ、イスラム国との関連はないと考えられてはいるが、犯人が自ら命を絶つたためその真相は不明である。仮にイスラム国による犯行ではなかったとしても、その影響が全くなかったとも言えない。この惨事について、ヨーロッパの2人の主教が個々に見解を述べた。ピ

エール・ウォーロン主教は『悲劇への心からの哀悼』という文章をしたため、この書の中

で「この惨事の後にも音楽会中に爆弾で12人が負傷したり、電車内で少年が乗客に向けて斧を振り回したりするという出来事があった」ことを危惧し「神よ、あなたは子ども達の叫びが聞こえないのですか。何時まで我々は叫び続けなければならぬのですか。イスラム国は何時まで存在するのですか。インド、インドネシア、パキスタンやミャンマー、これ以上どれだけ多くの人々の命が犠牲となるのでしょうか。何時までですか。主よ。何時までですか」という祈りを綴り、その最後に「神の愛と慈悲をもう一度お与えください」という嘆願を連ねている。一方、デービッド・ハミッド主教は「主日の礼拝において犠牲者や遺族の慰めのために祈り、またミュンヘンにおいて神の御業のために従事している同僚達を強めてくださるよう祈りたい」とコメントしている。

(Anglican Communion News Service July 25th, 2016)

司祭 ヤコブ 松平 功

(まつだいら いさお、守口 復活教会牧師)

教区の様子

常置委員会報告

6月13日(第10回定例会)

I. 主教報告

*日本聖公会第62(定期)総会報告(6/2~4 於牛込聖公会聖バルナバ教会)

議案 日本聖公会祈禱書一部改正・確定の件、祈禱書改正委員会設置(専従者・市原信太郎司祭)、日本聖公会法規の一部改正、ハンセン病回復者と家族への謝罪声明、2017・2018年度管区一般会計予算案承認の件など報告。

II. 協議事項

*第117(定期)教区会書記選定の件。書記 松平功司祭(長)、奥村貴充司祭。

*教務局体制に関する件。

*2017年度大阪教区一般会計予算案の件。

7月11日(第11回定例会)

I. 主教報告

*金山将司聖職候補生執事試験(6/14~16・6/23)実施。
*「堅信前の陪餐」について、7/11教役者会において学びの時を持つ。

II. 協議事項

*台湾聖公会との宣教協働関係を更に1期(3年間)継続する件。

*大阪教区・京都教区組織活動合併(案)に関する件。

(京都教区と大阪教区の合併を推進する委員会の報告より)

教会・施設の動き

聖贖主教会

○10月16日(日)博愛社フェスティバル バザー用品、玩具、日用品、衣料(新品に限る)のご協力をお願いいたします(電化製品はお断りいたします)。問い合わせ・児童養護施設博愛社06-6301-0367

教区関係教役者

逝去者記念聖餐式

◇ 9月14日 (水) 10時30分

於：主教座聖堂 (川口基督教会)

説教者：ヤコブ 義平雅夫司祭

- 4日 執 事 ラザロ 布施 好古 (1938)
- 6日 主 教 ヨハネ 名出 保太郎 (1945)
- 9日 司 祭 ジェームズ・J・チャプマン (1946 英)
- 11日 司 祭 チャールズ・ハムデン・バジル・ウッド (1941 英)
- 12日 主 教 ヘンリー・エヴァントン (1912 英)
- 14日 宣教師 ドロシー・サローム・ワインウイelson (1963 英)
- 23日 主 教 ペテロ 柳原 貞次郎 (1973)
- 司 祭 ドナルド・F・ウインズロー (2000 米)
- 25日 司 祭 田中 正之助 (1927)
- 27日 宣教師 エルシー・メイ・ベイカー (1977 英)

◇ 10月12日 (水) 10時30分

於：主教座聖堂 (川口基督教会)

説教者：サムエル 大西 修主教

- 2日 司 祭 ジョージ・チャプマン (1940 英)
- 5日 司 祭 サムエル 福田光宏 (2013)
- 9日 主 教 ヨハネ 山田 襄 (1993)
- 12日 司 祭 マルコ 岡 精三 (1997)
- 16日 主 教 ペテロ 松井 米太郎 (1946)
- 主 教 サムエル・ヘーズレット (1947 英)
- 18日 司 祭 ステパノ 木庭 孫彦 (1928)
- 20日 司 祭 チャールズ・セオドア・ワレン (1949 英)
- 23日 司 祭 ステパノ 遠藤 敏雄 (1971)
- 24日 司 祭 深田 直太郎 (1945)
- 司 祭 ペテロ 横田 久明 (1995)
- 25日 宣教師 イブリン・アリス・レーン (1971 英)
- 29日 司 祭 セオドシアス・ステファンズ・ティング (1927 米)

*教役者逝去記念聖餐式は、毎月第2水曜日午前10時30分
から、主教座聖堂 (川口基督教会) で行われます。ご関係の
有無にかかわらず、どうぞ自由にご参加ください。

大阪聖パウロ教会

○JOC S関西事務局 (大阪
聖パウロ教会3F) では、新
たな試みとして毎月第4土曜
日午後2時から、JOC Sオ
ーブンサタデイを開催してい
ます。9月24日(土)は、J
OC S会長畑野研太郎医師
が、「訊ね合おう、話し合お
う (Part 1) 病気? 歴史? 生き
方・信仰? 話し合いたいこと
なんでも歓迎!」をテーマに
何でもお答えします。詳しく

は関西事務局 (電話06-63
59-7277) まで。

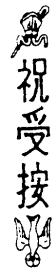
祝受洗

○川口基督教会

クララ 山本佳津子
(6月19日)

○大阪聖三一教会

セシリア 中嶋 菜奈
(7月17日)



○川口基督教会

クララ 山本佳津子

ステラ・ミシエル 大平 有紀

○石橋聖トマス教会

ルツ 貫 里見
(7月17日)

○大阪聖愛教会

アキラ 浅野 俊之
プリスキラ 浅野 早苗
(7月24日)

魂の平安を

祈ります

○石橋聖トマス教会

アンデレ 越賀 昭夫

○川口基督教会

アンデレ 鵜飼壮一郎

○大阪聖三一教会

アンナ 濱口 幸子
(7月24日・86歳)

お詫びと訂正

教区報第449号の掲載記事に
以下の誤りがありました。訂
正してお詫びします。

◎4ページ連合男子会(記事)
3段目9行目

(誤)「高校生の時に洗礼を受
けられ、」←

(正)「中学生の時に:」。

◎10ページ1段目(見出し)
○K共通記事のマークを削
除する(京都教区「つのおえ」
と掲載文が異なるため)。

編集後記

はじめての「山の日」に、
「ともに祈る」すばらしい聖
餐式が行われた。京都・大阪
両教区の合同聖歌隊の歌声が
花を添えた。陪餐後のジョ
ン・ラッターのアンセム「す
べての物をまばゆく美しく」
は、心に響く聖歌であった。
広島、長崎原爆投下から71
年。戦争を知らない世代の私
は、平和と非暴力の実現のた
めに心より祈った。詳しくは
次号で紹介したい。(G)